

【原 著】

歌唱指導における教師力の育成について  
～免許状更新講習の実践を通して～

早川 倫子 虫明 眞砂子

Retraining Teachers for Teaching Singing.  
—on a Teacher' s License Recertification Course—

Rinko HAYAKAWA , Masako MUSHIAKI

2012

岡山大学教師教育開発センター紀要 第2号 別冊

Reprinted from Bulletin of Center for Teacher Education  
and Development, Okayama University, Vol.2, March 2012

# 歌唱指導における教師力の育成について

## ～免許状更新講習の実践を通して～

早川 倫子<sup>\*1</sup> 虫明 眞砂子<sup>\*2</sup>

要旨：教員免許状更新講習の実践内容と、受講者の事前および事後アンケートの分析を中心に、歌唱指導における教師力の育成について考察を行なった。受講前には、歌唱指導に問題意識や苦手意識を持っている教師が多く、指導法に関しても、すぐ現場で使えるような発声法や指導法を求めている教師が多かったが、講習により、①問題意識・苦手意識の緩和、②歌唱指導についての考え方の転換、③歌唱指導についての知識や技能の獲得、④歌唱指導（音楽の授業）への意欲の喚起の4点の成果が得られたことが明らかとなった。特に、理論と実践を関連させながら、多角的な声へのアプローチをしていくことが、歌唱指導における教師力の育成につながると考えられた。

キーワード：歌唱指導, 教師力, 新学習指導要領, 発声

※1 早川倫子（岡山大学大学院教育学研究科）

※2 虫明眞砂子（岡山大学大学院教育学研究科）

### I. はじめに

学校教育の歌唱指導では、平成元年告示の学習指導要領まで半世紀にわたり扱われてきた「頭声的発声」が削除され、歌唱分野での発声指導の位置付けが、大きく変化しつつある。またそれに代わって表れた「曲種に応じた歌い方」、「自然で無理のない発声」等に関連し、今日さまざまな発声指導や歌唱指導に関する問題が取り上げられている。さらには、日本の伝統的な音楽の重視から、民謡や長唄などの歌唱表現の指導についても考える必要性も出てきている。

そのような中で、筆者らは平成21年度より、教員免許状更新講習において、特に小学校教員を対象とした「歌唱指導について」の実践を行ってきた。受講者との関わりの中で、現在の学校現場の歌唱指導では何が問題となっており、今後何が必要なのか、講習を通して検討を行ってきた。

本稿では、その教員免許状更新講習の実践内容と、受講者の事前および事後アンケートの分析を中心に、今後の歌唱指導における教師力の育成について考察を行う。

### II. 教員免許状更新講習における実践の概要と分析

#### 1. 構成

以下の表1は、講習内容をまとめたものである。

表1：講習内容の構成

講習名	「音楽科の理論と実践～歌唱指導を中心に～」
実施日	平成21年～23年の各8月に実施 (全6時間を早川と虫明で半分ずつ担当)
受講者	各30名～35名 (受講者の9割が小学校教員)
概要	様々な音楽科の理念を理解するとともに、新学習指導要領に示された音楽科の内容を踏まえて、実践への具体化を考察する。また、児童・生徒の発達に即した発声法や歌唱指導のあり方について理解し、それらを踏まえて歌唱指導についての実践的演習を行う。
目標	音楽科の教員に必要な理論と実践の関連を理解し、特に歌唱指導における実践的な知識と技術を習得する。

## 2. 事前アンケート<sup>1</sup>の分析

講習実施にあたり受講予定者に事前に行われたアンケートの記述内容について、ここでは分析する。対象は平成21～23年の3回分のものである。調査項目は、以下の2点である。

- ①この講習を受講しようと思う（希望する）理由
- ②この講習で学びたいこと・この講習に対する要望など

次ページ以降の表2、表3はそれぞれの調査項目における受講予定者の記述内容を分析し、まとめたものである。

まず、調査項目①については、表2のとおり記述内容を大きく2つに分類することができた。第一の受講理由は、〈教師自身の問題意識に関わるもの〉、第二は、〈指導法の探求に関わるもの〉、である。

第一の〈教師自身の問題意識に関わるもの〉については、「歌唱指導が苦手」、「難しさを感じている」、「歌唱指導について悩んでいる」等とあるように、多くの教師が歌唱指導について問題意識や苦手意識を持っていることが読みとれる。また、それを克服したいという思いを持って、受講を希望していることがわかる。受講者の多くが小学校教員であることから、音楽を専門としない教師にとっては、特に自分の身体（声）を使って直接的に表現する歌唱については、指導の難しさだけでなく、自分自身の声の表現も含めて、苦手意識を感じやすいためではないかということも推測できる。

第二の〈指導法の探求に関わるもの〉については、表2のとおり、様々な視点から歌唱の指導法について学びたいと感じていることが読みとれる。それらの視点は、主に、発声法、変声期、発達段階との関連、音楽会・音楽祭等の関連、新学習指導要領との関連、歌唱指導法（一般的）、その他、の下位項目に分類できる。その中でも、特に多いのが、「発声法」、「発達段階と関連した発声法や指導法」についてである。これらの下位項目については、調査項目②この講習で学びたいこと・この講習に対する要望など、についての分析内容と関連するため、後述したい。

次に、調査項目②の記述内容については、表3のように分類することができた。記述内容で一番多いのは、「発声法」についてである。教師たちは、歌唱指導の基本として、まずは発声法（発声の指導法）をどのようにすればいいのか、関心があることが読みとれ

る。「発声法」でも、1年生～6年生までの発達段階に関わる小学校では、特に変声期を迎える児童もいるため、変声期の児童に対しての発声の指導についても関心があることがわかる。また、「無理のない発声」や「楽な発声」などの記述内容から、児童らにとっての発声がどのようなべきなのかを学びたいという視点も含まれていると言えるだろう。

記述内容で2番目に多いものも、調査項目①と同じく、「発達段階に関連した指導法」についてであった。「発声法」のところでも述べたように、1年生～6年生という6年間では、個々の成長において、体格も変化し、声質も変わってくることは周知のとおりであろう。それぞれの発達段階において、どのような歌唱指導をすればいいのか、現実的な問題として教師が意識していることがわかる。

また、同じく2番目に多いものとして、「楽しい指導法・意欲を喚起する指導法」があげられる。その中には、「子どもたちが楽しんで歌えるように」する指導法や、「自信をもって声を出せない子どもたち」や「歌うことが苦手」な児童への対応、「やる気にさせる」ことのできる歌唱指導法などを学びたいというものである。これらの記述内容から、歌唱に対して苦手意識を持っている子どもたちが多いということが読みとれる。「歌わせたい」と願う教師と「歌うことが苦手」という子どもたちとの関係性の中で、教師は「歌唱指導の難しさ」を感じているのかもしれない。また、このことは、調査項目①で分析した〈教師自身の問題意識に関するもの〉と関連しているものと考えられる。

その次に、「音楽会等の合唱指導」、「新学習指導要領と関連した歌唱指導」、「きれいな声・美しい声の指導法」が分析項目としてあげられた。特に「きれいな声・美しい声」に関しては、数人の教師らが記述していたが、予想よりも少ない。教師らの中で〈声〉や〈歌唱表現〉に対する考え方が少し変化しているのではないかとすることも推測できる。それは、はじめに述べたように、学習指導要領の改訂等で、〈頭声的な発声〉が要求されなくなったことにも要因があるのではないかとこの点からである。

その他に、「日本の伝統音楽を中心とした歌唱指導」といった今日求められつつある歌唱表現や、「すぐに生かせるような・すぐに使える」などの現実的な問題も含まれていることは特筆すべき点であろう。

表2：①この講習を受講しようと思う(希望する)理由(下線筆者)

<p>〈教員自身の問題意識に関わるもの〉</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽科の歌唱指導が苦手、また、小学校高学年になるとみられる変声期の子どもへの指導の仕方を学びたいと思うから。</li> <li>・学校の歌唱指導でいろいろ難しいと思うから。</li> <li>・児童に歌唱指導をするのに<u>難しさを感じている</u>から。</li> <li>・歌唱は最も重要なのに、自分自身が<u>苦手意識がある</u>ので。</li> <li>・私は音楽に<u>苦手意識がある</u>ので、それを克服したくて受講を希望しました。おそらく音楽の堪能な方が受講されているでしょうから、単位を取得できるかドキドキしています。</li> <li>・高学年を担当することが多く、音楽の授業経験は少ない。今年度2年生を担当して音楽を指導すると、歌唱指導について知識も技能も<u>備わっていない</u>ことを痛感した。あらためて、きちんと学び授業に生かしたい。</li> <li>・指導者自身が、今まで音楽に深く関わっていないため、自分で範唱したり伴奏したりすることが<u>苦手</u>で、子ども達の意欲を高め、「美しい歌声」で歌おうとする指導がうまくできません。</li> <li>・音楽が苦手ですが、学校音楽祭の担当になり、合唱の指導をすることになりました。</li> <li>・現在は非常勤講師として勤務しており、専門科目のみを担当しているため、<u>歌唱指導の経験があまりない</u>。しかし、将来歌唱指導に携わらなければならない可能性は大いにあるので、この機会に指導法等を勉強したい。</li> <li>・日頃、児童の歌唱指導について悩んでいるため(特に低学年児童の指導)。</li> <li>・2学期に予定されている発表会に向けて、子どもたちの歌声を響きのあるものにしていくこと<u>のむずかしさを感じている</u>ため、指導方法を学びたいと思ひ希望しました。</li> <li>・日々音楽の授業に取り組んでいて、歌唱指導に<u>悩むことも多く</u>、この機会に是非勉強してみたいと思ひました。</li> <li>・自分自身歌が<u>苦手</u>なので、とにかく歌唱に関するいろいろな指導技術や知識等、お話を聞いてみたいと思ひました。</li> <li>・歌唱は毎日行われるにもかかわらず、<u>きちんとした指導の方法を知らない</u>ので、これを機会に少しでも習得したいと思つた。</li> </ul>
<p>〈指導法の探求に関わるもの〉</p>	<p><b>発声法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今年、音楽専科になり、<u>発声指導について研修したい</u>と思つたので。</li> <li>・どのように声をかけ指導したら子どもたちが発声の仕方を 分かり歌えるようになるのか<u>学びたかった</u>から。</li> <li>・音楽が好きだし、<u>発声法等をおしえて</u>いただきたいから。</li> <li>・歌唱指導となるといつも決まった<u>発声練習</u>になってしまうので、子どもたちが<u>楽しくなるような練習方法や声の出し方</u>を知りたいと思ひました。</li> <li>・現在、音楽系の高校で歌唱指導をしており、生徒の<u>発声法</u>や歌唱指導方法については一番興味のあることでもあり、自分の歌唱にも役立てたいと思ひました。</li> </ul>
<p></p>	<p><b>変声期</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽科の歌唱指導が苦手、また、小学校高学年になるとみられる<u>変声期</u>の子どもへの指導の仕方を学びたいと思うから。</li> </ul>
<p></p>	<p><b>発達段階との関連</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の自分の指導を振り返ると、歌うことを学級経営に取り入れるなど、歌うことは好きであるが、理論的なものが弱い。<u>児童の発達に即した発声法や歌唱指導について研修を深めたい</u>と考えたから。</li> <li>・児童の<u>発達段階</u>に応じた<u>発声法や歌唱指導</u>を学べそうだから。</li> <li>・多様な児童の<u>発達</u>に応じた<u>発声法や歌唱法</u>を学び、授業実践に役立てたい。</li> <li>・<u>発達段階にあった歌唱指導のあり方や方法</u>、正しい<u>発声法等</u>を勉強したいと思ひ受講を希望しました。</li> </ul>
<p></p>	<p><b>音楽会・音楽祭等との関連</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・勤務校の5年生が、11月に行われる倉敷市学校音楽祭に合唱で出演するため、その指導に生かしたい。</li> <li>・学級での合唱指導や音楽祭での指導に生かしたいと思つたから。これを機会に少しでも自分の指導力を上げたい。</li> <li>・音楽の授業をはじめ、音楽会の合唱を指導するにあたって、<u>専門的な知識を得たい</u>。</li> <li>・発表会や卒業式の指導もできるようにしたいので。</li> </ul>
<p></p>	<p><b>新学習指導要領との関連</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新学習指導要領の内容とともに、歌唱指導について学びたいと考えたため。</li> <li>・新学習指導要領の内容を踏まえた歌唱指導の在り方を理解し、日々の歌唱指導に生かすため。</li> <li>・新学習指導要領での実践について、<u>偏らない指導</u>と言われていますが歌唱指導における<u>具体的な実践の在り方</u>について学びたいと思ひます。</li> </ul>
<p></p>	<p><b>歌唱指導法(一般的)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校における歌唱法に興味がある。また自分自身も コーラスを趣味としている為。</li> <li>・専科の先生がいるので音楽指導から離れて数年になるが、今後音楽を指導する立場になった時、特に歌唱指導の方法を身につけて、生き生きと歌える子ども達を育てたいと思っているから。</li> <li>・歌唱指導について知りたいため。</li> <li>・音楽の基本である歌唱についての指導力を高めたいと考えた。</li> <li>・子どもの歌声をよりよく引き出す歌唱指導の在り方。音楽科の授業で子どもに何を身につけていけばよいのか等について考えたい。</li> <li>・小学校・中学校での指導に生かせる知識を増やしたい。学年に応じた歌唱指導の工夫や選曲について知りたいため。</li> </ul>

歌唱指導における教師力の育成について

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌唱教育に興味があるから。</li> <li>・歌唱指導に興味があり、実践しながら何か一つでも学び、教育現場で生かすため。</li> <li>・児童の合唱指導に役立てるため</li> <li>・日頃の歌唱指導にさらに自信を持ち、充実したものにしたい。</li> <li>・歌唱の指導法について再確認したいと思っているため。</li> <li>・歌唱指導についていろいろな技術を身につけたいので。</li> <li>・歌唱指導する機会が多く、自分の指導技術を向上させたいと思ったため。</li> <li>・歌唱指導を勉強したいという希望をもっている。また、指導にかかしていきたい。</li> <li>・様々な音楽科の理念を深めた上で、歌唱指導についての実践というところに興味を魅かれたから。</li> <li>・児童に美しい歌声を響かせたいというも思っているから。歌を好きになり、音楽を楽しめる児童を育てたいと思うから。</li> <li>・子どもたちが楽しく取り組める歌唱指導、また美しい声で歌えるようになる指導法、それらが知りたくて受講しようと思いました。</li> <li>・音程の合わない生徒の指導法。</li> <li>・大学在学中に声楽を専攻し、身につけた力を現場における歌唱指導に生かしたいと思ったからです。</li> <li>・歌唱指導を重点に学びたいと思った。</li> <li>・歌唱法の指導について、改めて勉強し直して、専門的な音楽指導にあたっていきたいと思ったから。</li> <li>・音楽教育の中心で歌唱指導を原点に戻って学びたいから。</li> <li>・歌唱指導の技術を身に付けたい。</li> <li>・音楽の授業の中心は、やはり、歌唱指導だと考えるので、改めてその指導方法を学びたいと思ったので。</li> <li>・音楽科、特に歌唱指導の授業力を高めたいから。</li> <li>・歌唱指導について興味があるため。</li> <li>・歌唱指導について講習を受けたいと思ったから。</li> <li>・歌唱指導の実践力向上のため。</li> <li>・現在、音楽系の高校で歌唱指導をしており、生徒の発声法や歌唱指導方法については一番興味のあることでもあり、自分の歌唱にも役立てたいと思いました。</li> </ul>
	<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の専門が歌であり、子どもたちに歌う喜びを教えることを大切にしているため。</li> <li>・高学年の児童にも歌の楽しさを伝えたいから。</li> <li>・歌は私達音楽楽器奏者にとってプレスや音楽性などを学ぶのに必要不可欠ですので、大変興味を持っております。</li> </ul>
<p>その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現場で役立つ知識を学びたいため。</li> <li>・新学習指導要領の移行期に当たり、今後の音楽教育についての理論を学習したいから。</li> <li>・教員になって20年を迎えるにあたり初心に戻って学びたいと思っております。</li> <li>・新学習指導要領に示された音楽科の内容を学びたいから。</li> <li>・自宅のある県の岡山大学で受講できるため 夏休みのため受講しやすい。</li> <li>・講師の先生方のお名前を見て、ぜひ受講したいと思いました。</li> <li>・幅広く音楽を学び、今後の指導に役立てたいから。</li> <li>・現任校に転勤し、教材等で悩んでいる。</li> <li>・勤務校において音楽を担当しているため、今後の教育活動に役立つと思ったため。</li> <li>・音楽の技量を高めたいから。</li> <li>・授業に役に立つと思うから。</li> <li>・専門分野だから。</li> <li>・新学習指導要領の内容に詳しくないので、知りたいと思ったから。</li> </ul>

表3：②この講習で学びたいこと・この講習に対する要望など（下線筆者）

<p><b>楽しい指導法、意欲を喚起する指導法</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちが楽しんで歌うためにどのような指導方法があるのか学びたい。</li> <li>・子どもたちが楽しく良い声で歌う手だてを学びたい。</li> <li>・児童が歌うことを好きになる、歌に自信を持てる指導ができるようになりたいです。</li> <li>・「歌いたい」という気持ちを持たせるための工夫を探りたい。</li> <li>・自信がなくて声を出せないでいる生徒への対応の仕方をし考えてみたいと思う。</li> <li>・「音楽（うた）は苦手」と思っている児童・生徒への関わりかた。</li> <li>・指導者の伴奏や範唱がうまくなくても、児童の意欲を高め、「自ら歌おう。」「友達と声を合わせることは楽しい。」という気持ちに導いていくことができるような発声法や歌唱指導法を、具体的に教えてください。</li> <li>・子ども達を、やる気にさせながら、音楽を深めていく歌唱指導をする為の、ヒント、実践を学びたい。</li> <li>・子どもたちが楽しく歌う指導の方法。</li> </ul>
---

<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽が苦手でも、楽しく学習できる合唱指導。</li> <li>・歌うことが苦手な児童に対する指導について。</li> <li>・子どもたちの心に届き、歌うことの喜びをますます教えて行くために、指導スキルのアップを図りたい。</li> <li>・子どもたちが楽しんで歌唱に取り組めるような指導方法を学びたいです。</li> </ul>
<b>きれいな声、美しい声の指導法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもたちの美しい声を引き出す歌唱指導。</li> <li>・きれいな歌声を作り出すには具体的にどのような指導をしたらいいのか基本的なことから教えてください。</li> <li>・美しい声でうたえるようになる発声練習の仕方。</li> </ul>
<b>発達に応じた指導法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達に応じた歌唱指導について深く学びたいと考えております。</li> <li>・小学校に勤務しているので児童生徒の発達に即した発声法や歌唱指導のあり方について具体的に指導方法を学べたらと思っています。</li> <li>・小学生の特性に合った様々な発声方法や合唱曲を実際に体験できたらと思います。</li> <li>・児童・生徒の発達に即した発声法をしっかり学びたいです。</li> <li>・発達段階に応じた発声練習の方法。</li> <li>・児童の発達段階に応じた発声指導のありかた。</li> <li>・性別、年齢に応じた指導法。</li> <li>・小学生(特に低学年)の児童に実際に指導する際に有効な手立てについて知りたいと思っています。</li> <li>・児童の発達段階に即した歌唱方法や発声法について学びたいと思います。</li> <li>・発達に即した歌唱の指導方法を詳しく知りたい。小学校教員をしているが、1～6年生までの間に子どもたちの心も体もずいぶん変わるので、それぞれの学年に適した指導法が知りたい。</li> <li>・児童、生徒の学年に応じた指導法を学びたい。</li> </ul>
<b>発声の指導法</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの子も恥ずかしながらしっかりと発声するための指導法。</li> <li>・変声期をむかえた児童にはファルセットで同じ音でうたわせたいのですがファルセットの声の出し方を指導してほしい。声がかすれている児童の指導法について。</li> <li>・児童の発達段階に応じた、児童が楽しさを感じる歌唱指導のしかた。 発声指導の仕方。</li> <li>・無理のない発声の指導法や、授業のはじめに取り入れられるような練習方法を教えていただければと思います。</li> <li>・音楽が専門ではないので、発声法や歌唱指導について具体的なアドバイスをいただきたいです。</li> <li>・音楽の授業で使える、効果的な発声法について。</li> <li>・生徒に対して、発声法などを伝える際に、具体的に、またはわかりやすい表現方法はないか、見つけたい。</li> <li>・声変わりの子どもに対する個別指導。</li> <li>・実際に子どもの発声が変わる声のかけ方や指導の流れを学びたい。</li> <li>・なかなか発声などを学ぶ機会もないため、この講座で発声の基本を再度学びたい。</li> <li>・発声、歌の指導方法、歌を好きにさせる方法。</li> <li>・児童に指導する発声方法や歌唱指導の方法をぜひ学びたい。</li> <li>・具体的な発声方法（特に変声期の児童について）。</li> <li>・児童の発達に即した発声法や歌唱指導について。</li> <li>・発声の指導について。</li> <li>・発声等に関わる具体的な指導法</li> <li>・児童・生徒の成長に応じた発声法と歌唱指導法を学びたいです。</li> <li>・発声の仕方。</li> <li>・変声期を迎える児童への発声法の指導について学びたい。</li> <li>・女子の高音を響かせる発声法・地声にならない指導法。</li> <li>・楽しく、簡単にできる発声法等をおしえていただきたいです。</li> <li>・楽な発声の仕方、小学校の段階での発声。特に、変声期の子ども、変声期に入りかけている子どもへの対応について。</li> <li>・発声法と美しいハーモニーを体感したいと希望します。</li> </ul>
<b>音楽会等の合唱指導</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽会などの合唱指導に生かせる大人数を対象とした指導法などがあれば知りたい。</li> </ul>
<b>新学習指導要領に関連した歌唱指導</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新指導要領に沿った歌唱指導のあり方について学びたい。</li> <li>・新学習指導要領を踏まえた歌唱指導。</li> </ul>
<b>その他</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現場で実践したいので、具体的な指導法を学びたいです。</li> <li>・具体的な実践や演習を交えた内容を希望します。</li> </ul>

- ・専門的なことを私自身が身につけていないので基礎を教えてくださいたいです。
- ・歌唱指導の指揮法について。
- ・現在喉を痛め声が出しにくい状況です。教師が声がうまく出せない状況での指導について学びたいです。
- ・実技中心になりがちな教育現場で、子供たちが表現を楽しみ、意欲的に創作活動に取り組めるための音楽基礎知識（読譜・表現に関する）の取り入れ方。
- ・実際に使える理論を教えてくださいたいです。
- ・歌唱実践がしたいですが、分かりやすい指導をしてほしい。
- ・新しい取り組みについて知りたい。
- ・小学校の授業でもつかえる楽曲を教材としてほしい。
- ・苦手な児童への指導。
- ・合唱指導において、発声法、パート練習など、できるだけ具体的な指導方法をいろいろ学びたい。
- ・この2年間、特別支援学級の専任となり、教科指導から離れてしまったため、この機会に声楽の実技能力を磨きたい。
- ・いろいろな角度での指導方法を知りたい。
- ・歌唱の上でのプレスの使い方なども知れたら大変勉強になります。
- ・意欲的に音楽の学習に取り組める指導法について。
- ・合唱指導の基礎的な指導法。
- ・実技や実践的な理論。
- ・より実践的な歌唱指導の演習がしたいと思っています。
- ・一番基礎的な歌唱法から順に教わりたいと思います。歌唱が苦手でも、克服できるアドバイスなども教わりたいです。
- ・日本の伝統音楽を中心とした歌唱指導を学びたいから。
- ・2学期からすぐに生かせるような講義を希望します。
- ・授業ですぐ使える歌唱指導を学びたい
- ・理論と実践とあるが、理論という部分で、どのような発見があるか興味があります。
- ・曲想の付け方、子どもたちへの効果的な言葉のかけ方など。
- ・小学生が歌いやすい合唱曲を具体的に教えていただきたい。
- ・具体的な指導方法を多く学ばせていただいて、子どもたちの歌声が変わる指導ができる力を身に付けたいです。
- ・私は、音楽を専門に勉強したことはないのですが、現場にはそんな方が多くいます。そんな私にも自信がつくような日々の実践に生かせる内容を期待します。
- ・現場の合唱指導でいかせるような理論と実践が学べる講座であってほしい。
- ・具体的な教材を利用して学びたい。

### 3. 早川の実践概要

早川の講習では、いくつかの課題活動を通して、音楽教育（音楽経験）について、その基本（原点）を再考すること、そしてそれを踏まえて、声の表現について考えることを目的にしている。

前節の事前アンケートの記述内容にあったように、教師らは、発声法や歌唱指導の具体的な方法について探求したいという理由で受講を希望している人が多かった。このことは、歌唱指導＝発声を教えて歌曲の練習を通して歌唱表現を作り上げていくもの、という考え方が中心となっているためではないかと考える。

早川は、歌唱にあたって、まず発声や歌唱という以前の基本的問題として、声そのものについて考えることの必要性を、本講習で取り上げた。「声を出す」ということが、人間にとって本質的にどういうことなのか。6つの声の課題を通して、「自分の声に気付くこと」から始めた。

テーマ：

◆「音楽科の理念および新学習指導要領について」

◆「声とコミュニケーションについて」

概要：

◆「音楽科の理念および新学習指導要領について」

1. 音楽・音楽教育について考える
    - 1) 教員養成において大切にしていること
      - ・「音楽とは？音楽表現とは何か？」
      - ・「音楽教育とは何か？」
    - 2) 課題の演習（新聞紙遊びを通して考える）
  2. 新学習指導要領について
    - 1) 内容について
    - 2) 経験のあり方について
  3. その他（音楽の成り立ち等）
- ◆「声とコミュニケーションについて」  
（～声の表現について考える～）
1. 声や歌唱指導に関わる様々な疑問や問題点

2. 自分の声を知る(声の課題<sup>2)</sup>)  
 声の課題①:自分の声を聴く  
 声の課題②:身体の振動箇所を探す・感じる  
 (ブルブルを探す・感じる)  
 声の課題③:息の使い方を意識する  
 (あたたかい息・つめたい息)  
 声の課題④:視覚的イメージと声の表現と  
 身体性(1)(ぐるぐる)  
 声の課題⑤:視覚的イメージと声の表現と  
 身体性(2)(声で綱引き)  
 声の課題⑥:語感と声・感情と声  
 (初めの一音節だけで表現)
3. 乳幼児期の声の発達から小・中学校の児童・  
 生徒へ応用できる視点
4. 様々な声の表現(声の参考鑑賞教材<sup>3</sup>につ  
 いて)
5. ヴォイスパーカッション<sup>4</sup>
6. まとめ

#### 4. 虫明の実践概要

小中学校での歌唱や合唱に関する問題点を探り、  
 発声法、ウォームアップ法、呼吸法、合唱ソルフェー  
 ジュ、合唱曲の歌い方等の実践方法を教師が身につ  
 けること、さらに、VTRを通して日本と欧米の合唱  
 の音声を比較することによって、受講者自身が日本  
 の合唱教育を再考することを目的としている。

テーマ:

#### ◆小学校・中学校の歌唱・合唱指導について

概要:

1. はじめに
  - 1) 歌唱活動や合唱活動の意義
  - 2) 声の衛生面の知識の必要性
2. 小学校・中学校の現状について
  - 1) 小・中の学習指導要領の歌唱記述の変化
  - 2) 岡山県の現状
3. ハンガリー・米国の児童生徒の様々な歌声  
 について VTR(7事例)
4. フィンランドの音楽教育
  - 1) 音楽教育システムの特徴
  - 2) 音楽教育の基礎
  - 3) 合唱の位置付け
5. 小学校・中学校における歌唱・合唱指導に

ついて(音楽授業)目的:児童・生徒は「歌う」  
 ことの楽しさ、開放感をいかに感じられるか。

- 1) のびのび歌える雰囲気づくり
  - 2) 身体をリラックスさせること
  - 3) 発声を具体的なイメージで説明すること
  - 4) イメージづくりを手助けできる声で歌うこと
  - 5) 詩の朗読や解釈によって言葉や音楽の表現  
 を膨らましてみること
6. 歌唱・合唱授業のポイント
- 1) 効果的な発声指導(子どもの成長に応じた)
    - ①ストレッチ→心身の柔軟
    - ②呼吸法→簡単にできる腹式呼吸(虫明メ  
 ソッド)
    - ③リラックス法(イメージ法)→心身の軟
    - ④母音唱とハミング→響きの統一感、声の  
 共鳴
    - ⑤発語法→子音と母音の意識、言葉の明瞭さ
  - 2) 合唱の導入とソルフェージュ
    - ①カノンの活用
    - ②合唱ソルフェージュ
  - 3) 曲づくり<sup>5</sup>
    - ①詩や言葉に対する読み取りはできているか。
    - ②歌詞を明瞭に発音するにはどうするか。
    - ③フレーズを感じて歌っているか。
    - ④曲全体の流れをつかんでいるか。
7. まとめ

#### 5. 事後アンケートの分析

ここでは、事後アンケートの記述内容について分  
 析する。対象は平成22・23年の2回分のものである。  
 記述内容については、資料1のとおりである。

これらのうち歌唱指導に関連した記述内容の分析  
 から、講習の成果として大きく以下の4点があげら  
 れる。

- ・問題意識・苦手意識の緩和
- ・歌唱指導についての考え方の転換
- ・歌唱指導についての知識や技能の獲得
- ・歌唱指導(音楽の授業)への意欲の喚起

まず、「音楽指導は難しいものではなく、子どもた  
 ちと楽しみながら学べる教科であるということが伝  
 わった」、「歌唱というと専門的な分野のイメージが  
 あったが、大切なことは、やはり心の持ちようであ  
 ることが分かった」等のように、歌唱指導(音楽指導)

に対する問題意識や苦手意識が緩和された記述内容がいくつかあった。事前アンケートでも、教師自身の問題意識や苦手意識が、受講の理由として多くあげられていた。筆者らは、講習の実践の中で、それぞれ「身近なところから声の表現を考えること」(早川)、「心身の柔軟・リラックス」(虫明)を重視し実践したことが、この成果の一つの要因ではないかと考える。

第二に、『声を出して歌う』ということ、流れ作業のように授業で行っていたので、声により表現する、という意味を考えることができた、『声』ということで、こんなにもいろいろな視点から考えられるものかと感動、『声』そのものへの気付きを促すという発想が大変新鮮等、かなり多くの受講者が、声への様々なアプローチによって歌唱指導に対する考え方が変わった点を記述していた。早川が実践の概要で前述したように、発声や歌唱という以前の基本的問題として、声そのものについて考えることの必要性を取り上げた。また、虫明も様々な視点から発声法についてアプローチした。これらの実践の成果が表れていると言えよう

また、「自分の声、また、声をどうやってコントロールしながら出しているかについて、知ることができてよかった」、「具体的な発声の仕方や、アメリカやハンガリーなど日本以外の様子も知ることができた」、「年齢に応じた声の出し方、『質』を考えた指導法等教えていただき、とても参考になった」、「声の参考鑑賞教材を子どもたちに聴かせたい」等、具体的な知識や技術の獲得に関する記述内容も多く見られた。

さらには、「自分の歌もしっかり磨き、美しい声で子どもたちに歌ってあげたいと思った」、「本日の実技はとても参考になり、ぜひ学校で活用したいと思った」等、歌唱指導への意欲の向上が表れているものや、「教育(音楽)に対する熱いものを思い出させてくれたような気がする」等、教師としての精神的な意欲の向上が表されているものもあった。

以上のことから、講習を通して、教師らが苦手意識を持っている歌唱指導について、多角的に考えるようになったこと、それによって教師の意欲を喚起することができたのは、一番の成果ではないかと考える。しかし、中には、さらに具体的な指導法を求める内容や、実践への応用の難しさを言及している内容もある。これらについては、筆者らの今後の課題になるだろう。

### Ⅲ. おわりに

本稿では、教員免許状更新講習の実践内容と、受講者の事前および事後アンケートを中心に分析を行ってきた。講習の成果として、問題意識・苦手意識の緩和、歌唱指導についての考え方の転換、歌唱指導についての知識や技能の獲得、歌唱指導(音楽の授業)への意欲の喚起の4点をあげることができた。

「歌唱指導における教師力」を考えると、まず何よりも教師自身が、楽しく自信を持って指導できるということが必要であると考えられる。筆者らの講習の実践内容に共通しているのは、声そのものの本質を意識し、身体性を伴って演習した点にある。気持ちを軽やかに、発声の感覚を身体全体で捉えて表現するということは、音楽の原点であり、音楽教育にとってとても重要なことである。また、単に“how toもの”と言われるような発声法や指導法だけでなく、理論と実践を関連させながら、多角的な声へのアプローチをしていくことが、歌唱指導における教師力の育成につながると考える。これらの多角的な声へのアプローチは、今日求められている多様な声の表現の指導へつながっていくことも期待できるだろう。

### 注および引用・参考文献

- 1 事前アンケートとは、岡山大学で実施される免許状更新講習のそれぞれの講習において、受講予定者に対して行われる「免許状更新講習課題認識調査書」のことである。
- 2 声の課題は、今川恭子・宇佐美明子・志民一成編著(2005)『子どもの表現を見る、育てる 音楽と造形の視点から』、文化書房博文社、pp.49~51を参考に実践したものである。
- 3 志民一成・早川倫子「参考鑑賞教材—いろいろな声を聴いてみよう—」、上掲書2、pp61~62より
- 4 木村充子作曲《ZOO!》および《動物のフーガ》を使用した。
- 5 平成23年度の講習会では、劇団四季文芸部作詞・鈴木邦彦作曲・富澤裕編曲《語りあおう》、杉本竜一作詞・作曲《Believe》を使用した。

## 資料1：事後アンケートの記述内容（カッコ内筆者）

- 歌唱という専門的な分野のイメージがあったが、大切なことは、やはり心の持ちようであることが分かった。あまり専門的知識がないままですが、楽しんでこれからも音楽の授業に挑もうと思いました。
- 音楽は心を豊かにするものだと思っています。お二人の先生方のお話の中にも、そのような要素がたくさん含まれていました。私は現在、高校で声楽の個人レッスンをしておりますが、小・中学校の音楽を指導される学校教育の現場にいらっしゃる先生方にとって、きっと、音楽指導は難しいものではなく、子どもたちと楽しみながら学べる教科であるということが伝わったような気がします。私も高校生の目線で指導していたつもりですが、つい受験を考え難しく指導していたかもしれません。この講義を参考にしたいと思います。
- 発声について、まったく無知で、子どもの前にも「こんなかんじかな」程度で立っていたが、今日の講習で教わったことで、自信が持てるようになったと思う。練習を重ねて、私自身、よい声を追求めていきたい。
- 「声を出して歌う」ということを、流れ作業のように授業で行っていたので、声により表現する、という意味を考える良いことができました。また、具体的な発声の仕方や、アメリカやハンガリーなど日本以外の様子も知ることができ、とてもすばらしい講習でした。
- 午前、午後共に、子どもたちの具体的な活動について話していただけたことが、とても参考になりました。ひと言の言葉かけで歌声が変わっていく…その技も勉強させていただきました。今、音楽を担当していませんが、次に担当する時に、是非使わせていただきたいと思います。
- 「声」ということで、こんなにもいろいろな視点から考えられるものかと感動しました。一日があつという間で、もう少し時間があればと思いました。歌ももっと歌いたかったです。とても楽しい一日でした。
- 「声」そのものへの気付きを促すという発想が大変新鮮でした。低学年からぜひ扱いたいです。そして、声を出すことに照れや抵抗のある高学年の子どもたちにもやってみたいです。「息」を整えることの大切さ、ムリな声を出させる必要はないことがスバッと頭に入り心にひびきました。
- 歌唱はまず体と心を開放するところからはじまると感じました。質を大切に、声帯を傷めるような無理をさせないということから大切にしていきたいと思いました。小さいことを低学年のうちから積み上げていけるように、楽しく自然に明るく音楽の授業をしていきたいと思いました。虫明メソッドを実践していきます。
- （虫明の授業に対して）VTRで、美しい声とはどういうものか聴くことができてよかったです。目指す姿を教員が知らないと指導できないと感じていました。
- 今まで指導してきた音楽教育の指導法を大変反省させられました。特に、一番に子どもたちに、自分の声やどんな表現方法があるかを知ることを大切にしていきたいと思いました。また、外国の指導についても話を聞くことができ、年齢に応じた声の出し方、「質」を考えた指導法等教えていただき、とても参考になりました。
- 様々な表現が、友達や教師との関わりの中で、今までの経験をもとに作りだされることや、やっていく中からできあがる楽しさを、子どもたちが体験できるよう気をつけていきたいと思いました。
- （虫明の授業に対して）アメリカやヨーロッパの歌唱指導を見せていただき、感動した。今までの日本の音楽教育で反省すべき点がたくさんある。ハンドサイン、楽譜は見せなくても耳を鍛えることが大切であることがわかった。
- 午前（早川）の授業では、なかなか自分の声に向きあったり触れたりする機会もないので、このようにゲームのような形で示すと、子どもたちもものってくるし、楽しく自分の声が発見できていいなと思いました。虫明先生の授業では、私の大学時代と変わらず、先生の声がきれいだなと感じました。美しい響きのある声を聴くと、自分のそのように歌いたくなるというのを、まさに感じました。専科だと、子どもたちの様子もつかみにくく、まとまりも難しいと思っていましたが、リラクスの体操と、発声・呼吸の仕方を授業前に取り入れて、楽しい空間で子どもたちと過ごし歌えるようにしたいとさらに思いました。
- 身体をリラックスさせて、気持ちを明るくして歌うことの大切さを今日、再認識することができました。
- 大変具体的で、2学期からの実践に即役立てていけることが、たくさんありました。発声のウォーミングアップや呼吸法など、忘れてしまわないようにノートを見直して、自分でも身体を使ってやりながら、子どもたちへ伝えられるようにしたいと思います。
- まず、教師自身の姿勢（音楽に向かう）が大切であると再認識しました。音楽本来のもつすばらしさを子どもたちに少しでも伝えたいなあと思いました。
- 「歌う」ということは「五感」を働かせることであり、「気持ち」が大切であることを再認識できました。日頃、合唱団の活動を通して、歌うことが当たり前のようなのですが、「こなしている」感が強くなっていました。原点に立つ、初心にもどることを忘れてはなりません。アメリカやハンガリーなど外国の合唱には、お国柄があふれていました。日本の合唱はどう捉えたらいいのでしょうか。日本ではどんな料理でも食べられるように、合唱も何でもあり！？それもいいけれど、何か納得できるものもほしいと思ったりもします。
- 今日受講して、いつもは自分が生徒を観察しながら気付きのキッカケを出している方ですが、今日は新聞（の活動）にしても、（声の）課題①～⑥にしても、「あっ！自分はこんなことを無意識でやってた！」ということにたくさん気付かされ、とても面白い時間でした。
- 子ども達は体験の中で、自然にいろんな声の出し方などを身に付けている。あとは、それを教師がどう生かしていくかが大切。見落とさずうまく生かしていきたいです。カノンや発声、楽しくできました。9月から授業をするのが楽しみです。
- 歌う喜びを知ることができました。自分の声に自信がないまま音楽を教えていましたが、自分自身自分の声を知らなかったことに驚きました。歌・音楽は、心を育て、気持ちを豊かにし、心を開放していき生きる力や希望を、そして生命に輝きを与えるものだと感じました。
- 先生のお話を聞く中で、自分は授業の中で、わりと私自身のイメージを押しつけて歌わせていることが多いかなと思いました。「完成した姿」でなく、「作り上げる過程」が大切だということも、反省した点です。が、過程は評価が難しいので、評価の手立ても一緒に考えなくてはいけないと思いました。

## 歌唱指導における教師力の育成について

- 声への様々なアプローチの仕方が、大変参考になりました。また、のどの健康を考えた発声や、成長とともに声を作っていくというお話は、自分自身のこれまでの指導を考えさせられるものでした。
- 午前中の講義で、いわゆる「遊び心」がとても大切だと思いました。子どもたちを指導する中で、どこまでその遊び心を取り入れ、取り上げていけるかは、子どもたちの状態によりわかりませんが、大切にしていきたい。実技のトレーニングは、すぐにでも取り入れていきたいです
- 教える人間は、音楽そのものにこだわりを持つことはもちろん大切だが、より広く目を開き、柔軟な姿勢で取り組むことが必要だと感じた。生徒たちの気持ちをどのようにして引き立て導くか、そのヒントをいただきました。ありがとうございました。
- 午前中は、自分の声に気付くこと、そして声の幅を広げていくことが歌唱指導（音楽教育）で大切なことだということがよくわかりました。午後は、世界の音楽教育の実状も踏まえて、喉を痛めない、無理のない、きれいな声を目指していくことの大切さとそのための方法を学びました。とても参考になりました。よりクラスで生きる指導法を学びたいです。
- 新聞遊びが、講座の中で出た時は、一体音楽と何の関係が？と思いました。音楽とは1人でするものではなく、人と人との関わりの中で互いに情報交換をしつつ、よいものに仕上げていくプロセスが大切なんだと、再認識しました。午後の合唱指導では、大学以来の実技演習、楽しくためになりました。
- 自分の声を知ることがとても大切だということがわかりました。どうしても歌を歌うときには、元気よくとか、大きな声で、ということを書いてしまっていたのですが、自然と子どもたちからできるように指導していこうと思いました。
- 声に対しての表現は、あまりやったことがなかったので、面白かった。午後の実践は、なるほどと思うことが多く、本当に勉強になった。カノンや発声はさっそく使いたい。
- 課題を通して、自分の声、また、声をどうやってコントロールしながら出しているかについて、知ることができてよかった。午前中の理論と午後の実践につながりがあったので、今日一日だけの講習だったが、多くのことを学ぶことができ貴重であった。
- 歌うことの原点に気がきました。
- 何らかのイメージやその場面を思い浮かべることや、声の表現も五感を通して行われていることがわかった。子どもの無理のない声を出すためには、成長に合わせて声を作っていく必要はないことや自分の声や他者の声を知ること。
- （早川の授業に対して）今日は声についてのいろんな課題で、声の表現について学習することができました。おもしろいなあと思いながら取り組ませていただきました。後半は声の参考鑑賞教材をたくさん紹介してくださってありがとうございました。教科書の教材だけでなく、児童に教えるためには、いろいろと教材研究することが大切だと思いました。「裏声と表声に着目して」などの教材をぜひ子どもたちにも聴かせたいと思いました。（虫明の授業に対して）虫明先生の「先生がとても美しい声で歌うことがとても大切」という言葉。今日はいろんな曲を歌わせていただきましたが、自分の歌もしっかり磨き、美しい声で子どもたちに歌ってあげたいと思いました。今日は音楽教育のいろんなヒントを教えていただきありがとうございました。
- 音楽を楽譜や教科書どおりに学習させようとすると、子どもたちは「楽しんだり」「豊かな表現力を身に付けたり」「思考・判断力を向上させたり」することがなかなか困難である。本日の実技はとても参考になり、ぜひ学校で活用したいと思った。教師にもこういう実技の講習の機会が多く必要であると思った。
- 今日一日、とても有意義な時間を過ごすことができ、ありがたかったです。日頃、「これはどうしたらいいのか？」とか「このままでいいのか？」とか、自分自身で悩んでいることに対してのヒントをたくさんいただくことができました。どんどん音楽の授業が減っていく中、子どもたちが「楽しい!!」「この時間は嫌なことを忘れられる！」と思えるような音楽の時間にしたいし、私自身これからももっともっと音楽を楽しんでいこうと思いました。
- 教員になったばかりのころは、若いということで生徒ともコミュニケーションがとれていたように思いますが、年が生徒たちを離れ、そして家庭の仕事等自分の時間がなかなかとれず、教材研究もままならないままに授業をしている現状です。今回岡大で講義を受け、とても自分のためになりました。また続けて頑張りたいと思います。
- 現場にいると、学問的考察より今日のこのクラスをどう乗り切るか、合唱コンクールをどう運営（選曲からクラス指導、担任との関係づくり、校内協力体制など）するか、卒業式をどうするか、などに年間を通して追われているので、アカデミックな講義に命の洗濯をした思いです。
- 「音楽」とは楽しい雰囲気のもと、子どもたちがのびのびと活動に取り組みなければいけないということを改めて感じました。と同時に、指導者側の自分も、しっかりとした準備のもと、子どもたちに教材とのよい出会いをさせていってあげることが、自分に課せられた本当の役割なんだということを確認することができました。久しぶりに大学で講義を受け、22年前に持っていた、教育（音楽）に対する熱いものを思い出させてくれたような気がします。今日はすばらしい講義をありがとうございました。
- 声を出すことは心地よいこと、楽しいこと、ということを改めて経験させていただきました。ありがとうございました。ハーモニーのすばらしさも再認識しましたので、今後の指導に生かしていきたいと思います。自分自身の声・発声についても高めていきたいです。
- 自分の声やいろいろな声を知ったり、声の出し方を工夫したりすることを子どもたちが楽しいと思える音楽の時間にしたいと思いました。しかし、自分で実際に声を出してみると、やはり難しいなど思うことが先に立ち、楽しむところまではいきません。自分のような子がクラスにもいるということも念頭に、音楽の時間に臨みたいですね。
- 音楽がとっても苦手で、途中、場違いなところへ来たのではないかと感じることもありましたが、一日楽しく学習することができました。ありがとうございました。二人の先生の生き方から感じられる音楽のすばらしさに、少しでも触れることができ、よかったと思いました。
- 本日はありがとうございました。まだまだ講座を聞いていきたいです。免許状更新のための講座でなく、ぜひ今日のような内容の講座を

開いていただきたい。なかなか二部合唱に結び付かないグループに、ぜひカノンの教材を用いたいと思います。また、知的（障害）のグループには、Zoo!や動物のフーガに挑戦させたいです。

- とてもわかりやすく、楽しいお話で、大変参考になりました。先生方の資料や教えていただいたことを、さっそく生かしていきたいと思えます。お話を聞くだけでなく、自分たちで動いたり歌ったりできたのも楽しかったです。
- とても楽しい有意義な一日でした。（早川の授業に対して）声について、新聞紙遊びからつなげて、コミュニケーション・表現へと話が進んでいき、とてもわかりやすかったです。虫明先生の素敵な歌声もたっぷり聴けて幸せでした。
- 音楽の授業…というより、学校生活の中に音が散らばっていて、音が楽しめるようにできれば…と思います。国語の教科書を全員で読むように全員で歌う…ということは、他人との関わり、バランス、協調性が養われると思うのですが、最近あまり聞こえてこなくて残念です。
- 文科省は「曲種に応じた歌い方」と言っているが、日本音楽の歌い方や民謡の歌い方を授業で教え、その後合唱曲でまた頭声に近い発声に切り替えるのは無理な気がします。小さい時からピアノ・ヴァイオリン等をやって音を覚えている子ほど、移動ドはよくない気がします。自由にしてもよいのでは…と思う。日本音楽の歌い方は、自分ができないので、教えるにくい。
- 声で表現するは、自分の身体を使って最大限に表現しなければならないこと、イメージを持って声を出して歌うこと
- たいへん充実した6時間でした。確かに、小学生は成長の著しいときであり、この6年間をどう過ごすかで、生涯音楽好き、音楽嫌いの2方向に分かれてしまいます。私はいつも「音楽は音を楽しむ」ものと教えています。幸い、今は音楽の時間を楽しみにしてくれているので、今日学んだことをさっそく実践したいと思えます。
- 実際に声を出してみることで、よい経験ができた。
- 午後の歌唱指導は、学びたいと思っていたことですので、適格なアドバイスをいただきながら、実際に声を出して経験することもでき、ありがたかったです。資料も大切に活用させていただきます。
- 様々な指導法、楽しい曲を教えてください、実践してみたい気持ちはいっぱいあります。しかし、現場に戻ると時間的余裕がなく、ここまで思ったところまでできないのが実状です。音を作り上げる過程、できあがった音、どちらも楽しいのですが、その楽しさを味わわせてやりたいのですが…。
- 声とコミュニケーションを学んだ点が楽しかったです。子どもたちによく歌って聴かせるが、それも良い、それから「気」も大切というの、残りました。腹式呼吸を教えるのに、バラの香りを思い切り吸って、横で手を止め声を出すというのがよくわかる（小学生にも大人にも）。頭声の発声を必ずすること、音域を広げること、喉を柔軟にすること、和声（ハーモニー）が大切。
- 午前中のパワーポイントの資料をいただき良かった。午前・午後とも、実技を取り入れてあり、楽しく講習を受けることができました。9月からの授業で少しでも取り入れられるよう努力します。
- ただ単に、歌うことが好きな子どもたちにしたいという思いでしたが、やはり、歌っていいなと再確認しました。
- 声や歌うことは、音楽の根本だなあと改めて感じました。はずかしくて声を出さない子や、怒鳴ってしまう子がいたとき、今日の講習で学んだ課題や方法を使って、自分の声を出す楽しさや他者の声を聞くことに気付かせることができたらいいなと思いました。
- 子どもを目の前にすると、何か教えなければというイメージがあり、力が入ってしまう。しかし、まず自分の声に集中させ、自分の声に気付き、また人の声を聞き、それらを大切にしようとする姿勢を身に付けさせたいと感じた。何より声を出す楽しさを味わう経験を多く積み重ねることが重要であることを改めて感じた。また、教師の範唱も大切で、“きれいな声”・“のどに負担のかからない声”のお手本を示すことを常にイメージして、2学期からの指導に取り組んでいこうと思う。
- 発声練習では、音程を正確にとり、喉を広げて声を出すだけでなく、輪唱し合うことで、他の声を聞きハーモニーを聴くこともできるし、楽しくもなる。気分がのると声も生きてくる。
- とても楽しくわかりやすい講義でした。音楽の楽しさを再確認させていただきました。ありがとうございました。
- 活動と講義が組合わせられていて、話を聞いたことが体験できたり実感が持てたりしました。子どもの声をもっと私もよく聴いてみようと思えました。私が体験したことを、ぜひ子どもたちと一緒にやってみたいと思えます。

---

Title:Retraining Teachers for Teaching Singing.

– on a Teacher’ s License Recertification Course –

Rinko HAYAKAWA (Graduate School of Education, Okayama University)

Masako MUSHIAKI (Graduate School of Education, Okayama University)

Keywords: teaching singing, retraining teachers, new teaching guideline, vocalization

---